

関東支部 第5回提案競技 「美しくまちをつくる、むらをつくる」

- <主催> 日本建築学会関東支部
- <共催> 栃木県栃木市、栃木市教育委員会、日本建築学会関東支部栃木支所
- <後援> (社)栃木県建築士会、(社)栃木県建築士事務所協会、(社)日本建築家協会関東甲信越支部 JIA 栃木クラブ、栃木市観光協会、栃木市観光ボランティア協会、下野新聞社、栃木ケーブルテレビ(株)

「美しい」「美しく」とは？ - 「人に対して魅力的であるということ、人を惹きつける、行ってみたいくなる、そこに居たくなる、住みたくなるような所。単に何となくきれいである、というのではなく、きれいであって、健康で、活気がある、または気持ちが和む、落ち着くなど、様々な要素をもたなければならない。」古来、日本人は美しい山河、海浜、庭園、神社仏閣、農村風景等の景観を愛し、それを大事にする心を持っていた。しかし、近年、景観を考慮せずに機能、経済性の追及に偏った開発が行われ、生活の利便性が向上する反面、多くの地域でかつての美しい環境が失われ、人々の心に荒廃の影をもたらしている。

美しい環境・景観は与えられるものではない。市民・住民の不断の努力によって作り上げられたものである。「美しくまちをつくる、むらをつくる」というテーマは、市民の側に主体的に美しいまち・むらをつくらうという意識をもってもらいたいという意味を込めている。市民にそのような意識をもってもらうためには、デザインによってまちやむらはどのように美しくつくられるかが示されなければならない。これを示し得るのは、建築・都市デザイナー、建築家、建築士などデザインの専門家、およびそれを目指す学生諸君であろう。さらにこのような意識を子供の時から育てるために、子供たちにもこのイベントに参加してもらい、美しいまちづくりを考える楽しさを味わってもらいたい。

本提案競技は、以上の主旨のように、デザインの持つ力、重要性を社会に対して示す場を設けようとするもので、建築・都市デザイナー、建築家、建築士、学生を対象にした美しいまちづくり・むらづくりのデザインコンペティションおよび小中学生を対象にした美しいまちなみ絵画コンクールを内容とする。関東支部の継続事業の第5回である。ふるって参加をお願いしたい。

応募規定：支部会員の部

1．課題「美しくまちをつくる、むらをつくる」

魅力的なまちづくり、むらづくりの計画案を提案してください。必ずしも提案の実現性にはこだわりませんが、今後の栃木市のまちづくりに参考になるような説得力のある提案を望みます。

2．対象地の概要とテーマ

(1) 栃木県栃木市の概要

栃木市は、東京から約 80 km、県都宇都宮から約 30 km に位置し、人口約 84,000 人の栃木県南部の都市です。JR 両毛線と東武日光・宇都宮線の鉄道を擁し、栃木駅周辺では連続立体交差事業等の進展により近代化が図られています。市の西北部には山間地が、東南部は関東平野につながる田園が広がり、豊かな水と自然に恵まれています。太平山から永野川、巴波川に代表される豊かな緑や水辺等は、市内外から訪れる人々に憩いやうるおいを提供しています。

栃木市のまちの萌芽は、1591 年の栃木城の構築にはじまったと言われていますが、1609 年のお取り潰しにより城下町から商人町へと変貌することになります。江戸時代には徳川家康の日光改葬に伴い例幣使街道が整備されるとともに、日光東照権現の祭礼用の諸荷物を巴波川から上げる港町、勅使や諸大名のための宿駅と 2 つの機能を兼ね備えた町が形成されました。また後背地で作られる米、麻、木材などの物資の集積地ともなり、巴波川を利用した舟運により江戸と交易を通じ一大商都として北関東屈指のにぎわいをみせました。明治 4 年には県庁が置かれたものの、明治 17 年県庁は宇都宮に移転されました。しかし商業の中心地としての隆盛は明治の中頃まで続き、大通り（旧例幣使街道）の両側には見世蔵や土蔵が軒を連ねていました。

近年は、中心市街地において蔵に代表される多くの歴史的、文化的資源を活かしたまちづくりに取り組み、歴史的まちなみを形成しています。その一方で中心商店街において、後継者不足や不況により空き店舗や空地が目立ってきており、単に商業振興だけでなく総合的なまちづくりが求められています。

栃木市のホームページアドレス

<http://www.t-cnet.or.jp/~tochigic/>

(2) テーマ：水と歴史が織り成すときめきのくらしまちづくり

歴史、自然などの既存資源のさらなる活用と各種都市機能の集積を活かした、市民あるいは来街者にとってもわくわくするような魅力のある空間を提案してください。対象地は、栃木市中心市街地の「大通り周辺地区」、「巴波川周辺地区」、「県庁掘周辺地区」、「みつわ通り周辺地区」、「嘉右衛門町通り周辺地区」の 5 地区とします。いずれかの地区に対する個別の提案でも、いくつかの地区にまたがる提案でも構いません。計画範囲は自由に設定してください。

中心市街地においては、これまで「誇れるまちづくり計画 - 巴波川・蔵のまちルネッサンス」に始まり、大通り整備や蔵の保全・再生の整備が着実に進展

してきました。また「ウォーキングトレイル事業」を導入し、歩行ネットワークの形成にも努めました。しかしながら街中に存在する蔵をはじめとする多くの歴史的資源や巴波川、県庁掘の水辺資源がより有効活用され、魅力ある中心市街地の形成に十分に寄与しているとは言えません。さらに街なかのにぎわい創出に向けては、より一層の歩行者ネットワークの充実を図り、回遊性の高い歩行者空間づくりを行うことが必要となっています。また、みつわ通りなどの中心商店街では、核店舗を含む空き店舗が目立ってきています。さらに嘉右衛門町通りは、賑わいはないが昔ながらの貴重な景観を有しており、栃木市の歴史的・文化的ストックや都市的機能を活用した商業環境づくりが求められています。ぜひ、栃木市の特性を十分考慮した、生き生きとした楽しいまちづくり提案を期待しています。

3．要求図面等

- (1) A 1 判用紙 (594×841mm) 1 枚以内に提案をまとめてください。
- (2) 表現方法は自由としますが、パネル、ボードは使用しないでください。
- (3) 必須の項目や図面は特に決めていません。資料等から判断し、各応募者が自由に課題を設定し提案してください。

なお、質疑応答は特に行いません。

4．応募資格・応募点数

- (1) 応募の代表者は、本会関東支部の所属の個人会員もしくは準会員（作品提出時までの入会手続者を含む）であることとします（共同制作者は会員外でも可）。
- (2) 個人での応募または同一メンバーで構成されるグループで応募する場合は、1 点のみとします。

5．応募登録

応募登録申込書に、必要事項（氏名、会員番号、所属、連絡先住所、電話を記入のうえ 2003 年 8 月 11 日（月）までに日本建築学会関東支部事務局まで郵送してください（消印有効）。なお登録料（郵便為替）と資料返送用封筒（A 4 判封筒に登録者の宛先を記入し、390 円分の切手を貼ったもの）を同封してください。登録者には、栃木市に関する資料を送付します。登録料は応募 1 点につき 2,000 円です。郵便為替を郵便局で購入し、受取人に日本建築学会関東支部と記入して同封してください。

6．作品提出

日本建築学会関東支部宛て、郵送または宅配便により、2003 年 9 月 17 日（水）までに送付してください（消印有効。審査会までに到着したものは受付ける）。直接持参は受け取りません。応募登録用紙に必要事項を記入し、封筒に密封して作品の裏にはがせるように貼りつけてください。作品中には、作成者が推測できるマーク等を表示しないでください。

7. 全体スケジュール

- ・応募登録受付：2003年7月7日（月）～8月11日（月）
- ・地元説明会：2003年7月26日（土）13：30～
栃木市文化会館リハーサル室（栃木市旭町 12 16 0282(23)5678）に
集合してください。栃木市職員および観光ボランティアの方が現地を案内
して説明します。
（アクセスは、東京方面から電車の場合、東武日光線特急きぬ 115号浅草発
11:00 - 栃木着 12:06 あるいは特急きぬ 117号浅草発 11:30 - 栃木着 12:36
が便利です）
- ・応募作品受付：2003年9月8日（月）～9月17日（水）
- ・入賞発表：2003年9月下旬頃入賞者には通知します。また「建築雑誌」誌
上とインターネット上で公表します。
- ・表彰式：2003年10月18日（土）13：30～
栃木市文化会館展示室で行います。入賞者は参加してください。
- ・入賞作品展示会：2003年10月18日（土）～10月20日（月）
会場は栃木市文化会館展示室及び玄関ロビー

8. 審査委員会

- 審査委員長：河東 義之（千葉工業大学教授）
- 審査委員：栃木市長
佐々木龍郎（佐々木設計事務所）
増山 正明（足利工業大学助教授）
岩本 太郎（日本建築学会栃木支所長）

9. 賞

- ・最優秀賞 1点（賞状、副賞30万円）
- ・優秀賞 3点（賞状、副賞5万円）
- ・栃木市長賞 3点（賞状、記念品）

10. 著作権

応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者は本設計競技の主旨に照らして、応募作品の公表等をする権利を使用することができるものとします。

11. 作品の返却

返却を希望する方は、支部事務局までお越しく下さい。なお表彰式より3ヶ月を経過したものは処分致します。

応募規定：小中学生の部

1. 課題「誇れるまち栃木市 こんなまちにすみたいな」絵画コンクール
将来あなたが住んでみたい、誇れる理想の栃木市を自由に描いてください。
2. 提出作品
四つ切画用紙（380mm×540mm、縦書き、横書きいずれも可）1枚。画材として油絵、水彩画、パステル画、クレヨン画、色鉛筆画などのほか、技法としてコラージュや半立体表現（厚さ10mm程度まで）も可とします。ただし壁面掲示に耐えられるもの。
3. 応募資格
栃木市内の小学校、中学校に通う児童・生徒とします。
4. 応募登録
登録の必要はありません。
5. 作品の提出方法
提出先：栃木市教育委員会
作品の裏に学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入してください。
6. 全体スケジュール
 - ・応募作品受付：2003年9月8日（月）～9月17日（水）
 - ・入賞者の発表：2003年10月上旬ごろ応募者の学校に通知します。
 - ・表彰式：2003年10月18日（土）13：30～
栃木市文化会館展示室にて行います。入賞者は参加してください。
 - ・入賞作品展示：2003年10月18日（土）～10月20日（月）
会場は栃木市文化会館展示室及び玄関ロビー
7. 審査委員会
地元美術関係者、市内美術教育関係者など
8. 賞
 - ・最優秀賞 4点（賞状、1万円の図書券）
 - ・栃木市長賞 9点（賞状、5千円の図書券）
 - ・栃木市教育長賞 9点（賞状、3千円の図書券）
 - ・入選 20点（賞状、1千円の図書券）
9. 著作権
応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者は本設計競技の主旨に照らして、応募作品の公表等をする権利を使用することができるものとします。
10. 作品の返却
作品展示会終了後に学校を通して返却します。